

平成20年度 県土整備部環境配慮事例報告書

事業主管課	道路建設課
実施機関	東部県土整備局(環状担当)

【事業の概要】

事業の種類	道路の整備	一般国道、県道、街路
事業箇所名	徳島県徳島市川内町	
事業の規模・状況	4.2 km	施工段階

【事業の目的及び概要】

徳島市中心部及び周辺部における幹線道路の交通渋滞緩和、また地域の活性化、利便性の向上等を目的とする外環状道路の一区間として事業を実施。

【実施した環境要素の一覧及びRDBの有無、モニタリングの要否】

大気環境	水環境	地形・地質等	生物多様性	景観	自然とのふれあい	文化財	廃棄物・温室効果ガス等	RDB種の有無	モニタリングの要否
○	○	○	○				○	○	

【特に配慮した環境要素と実施事項】

・大気環境(騒音・振動による生活環境の悪化)
低騒音施工機械の使用、無振動工法(油圧圧入機)の採用
・廃棄物・温室効果ガス等(建設副産物の発生)
建設残土の有効利用、再生骨材等リサイクル資材の活用
・生物多様性(希少動植物の生息・生育地の保全)
既設水路部の工事施工時に代替水路を設置し、生息空間を確保する。また、工事区域内で繁殖する鳥類の繁殖時期を避けて工事施工を実施する。

【目標に対する達成状況】

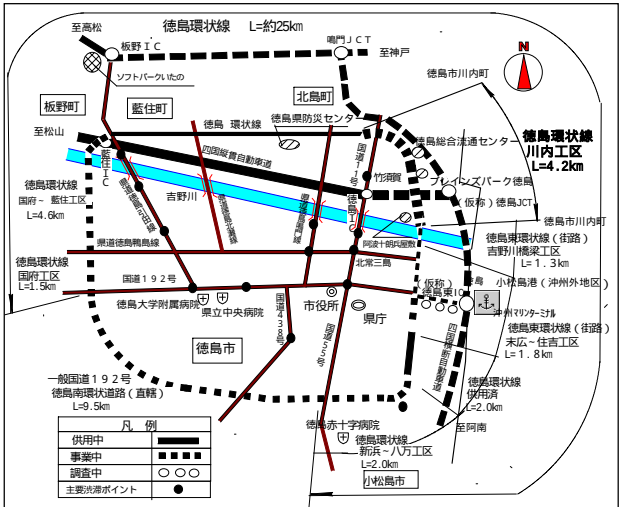
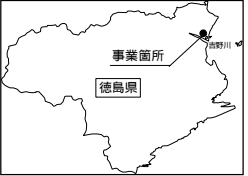
工事により消滅する希少種(メダカ)等の生息空間を一時的に確保し、個体の減少を軽減する。また、工事区域内の既設水路部に取り残された水生生物を区域外に移動し、個体数の減少を軽減した。

【実施事項に対する評価】

実施者	今年度は、希少種に限定した環境配慮でなく、その他の生態系への環境負荷を軽減する施工方法の一部を実践した。今後も希少種の保護は当然であるが、そのみにとらわれず、環境負荷の軽減に繋がる工事施工方法を取り入れたい。
主管課	工事が完了した後に、工事前に確認した生物等の定着状況の確認が必要である。今後も可能な限り環境への影響を軽減できるよう努めながら工事を進めていきたい。
専門家	(建設管理課で確認して記入)

位置図・平面図等

位置図:1/25000



写真・図面等



代替生息地の確保



工事区域からの放流水の水質確認状況



工事区域内の既設水路部に取り残された魚類の移動状況



工事予定区域内のケリの巣と卵